



# 園研育成グラジオラス「舞姫」栽培マニュアル

農業総合センタ - 園芸研究所

## 1. 品種特性

- 1) 透明感のあるピンク色の花色が魅力。花色が薄い方が市場性が高い。
- 2) トラベラよりやや早生。季咲きで2日，露地抑制で1週間ほど早咲き。
- 3) 病害虫抵抗性はトラベラと同程度。穂焼けの発生はやや多い。

## 2. 作型

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ハウス半促成		保温 (定植)					(出荷)					球根サイズ	
トンネル半促成			(定植)				(出荷)					2~3等球	
露地季咲き				(定植)				(出荷)				4~5等球	
露地抑制			球根冷蔵貯蔵			~順次定植~			~順次出荷~			2~3等球	
ハウス抑制			球根冷蔵貯蔵									2~3等球	

3. 収量目標：2,500~3,000本/a

## 4. 球根入手・予措

- 1) 2~5等球で10a当たり，2.7~3万球を目安として購入する。
- 2) 入手した球根はすぐに箱から取り出し，腐敗球を取除き，ホーマイ水和剤に浸漬（200倍液30分）または粉衣（球根重の1%）する。
- 3) グラジオラスアザミウマ防除のためにオルトラン水和剤に浸漬（1,000倍液10分）する。
- 4) 抑制作型用球根は球根消毒後2~4の冷蔵庫で，過湿を避けて貯蔵する。

## 5. 定植準備

- 1) 土質は特に選ばないが，日当たり，排水の良い圃場を選定する。
- 2) 保水通気性を良くするため，プラウでの深耕や有機物の投入（2~3t/10a）を行う。水田では過湿を避けるため高畝とし，暗渠や明渠を設置することが望ましい。
- 3) 同じ圃場では4~5年間は作付しない。やむを得ず連作する場合は，土壤消毒を行う。併せて深耕や完熟堆肥の施用を行う。水田での栽培を積極的に取り入れ，イネとの輪作（2年間はつづけてイネを作る）を行う等の対策をとる。
- 4) pH6.0を目標に土壤改良材を投入する。

## 6. 施肥

- 1) 全施用量は，窒素分を成分で1.5kg/aとし，リン酸，カリをやや多めの2.0kg/aとする。
- 2) 元肥（窒素 - リン酸 - カリ = 1.0-2.0-1.5kg/a）は定植15日前までに施す。
- 3) 追肥（窒素，カリを0.25kg/a）は本葉2~3枚頃と本葉4~5枚頃，肥料が不足気味の時に施用する。

## 7. 定植・栽培管理

- 1) 定植床を90~120cm幅とし，株間15cmの6~8条植えとする。4等球以下の小球では多少狭く，また，ハウスやトンネル栽培では株間を広くとる。
- 2) 抑制栽培では，出荷期より90~100日前に定植する。
- 3) 高温期の定植では，冷蔵庫から出庫後，球根を日陰に1~2日置き，高温に馴化させてから定植する。
- 4) 発芽不揃いにならないように，定植後に十分灌水する。
- 5) 半促成栽培では定植後にマルチを張り，発芽後穴をあけて芽を出す。1~2葉期と5~6葉期は低温によってブラインドになりやすいので保温に注意する。発芽までは日中30℃，以後25℃を目標にし，出穂以降は十分な換気を図る。トンネル除去は晩霜の無くなる頃の無風曇天日に行う。
- 6) ハウス抑制栽培では，新しいビニールを10月中旬頃までに被覆する。大球を用いた場合は，1球当たり2~3芽発芽するが，光線量確保のため必ず1芽に整理する。
- 7) 本葉4~5枚頃，土寄せやネット張りをを行い，到伏を防止する。

## 8. 病害虫防除・生理障害

- 1) 健全な球根を用い，連作を避け，窒素肥料をやりすぎないようにする。また，密植せず，排水を良くし，残査を適切に処理する。
- 2) 赤斑病，灰色かび病にはポリオキシ AL水和剤（2,500倍）を散布する。

## 9. 収穫・出荷

- 1) 切り前は第1~2小花の蕾が見え始めた頃であるが，高温期には堅めに切る。
- 2) 強光期には圃場にあまりおかず早めに収穫し，花色が濃くならないようにする。
- 3) 50本箱で出荷する。

